

○京和子四甲子春新刻耕書中卷本



○山東京傳子我化榮松高也長生國魚

五万石の田
通油町為十板
中
賣
買
通
油
町
為
十
板
中

13
2946
68



2946
68



孟軻が語に色食の性也といふも色
 花より團子の世乃中。燈籠見物の土手に
 日暮飛鳥の花盛に團子の賣りさうは
 南言來るもの較とあまひき心太い水晶の拵木と
 つる。編笠焼に伊たあつ昔と志のべ金鰯焼に六方乃
 男達とあつ小女郎の誠も。雞卵焼の四角に志とと
 月より黒砂糖の闇と賣來る汁粉餅風鈴共交々に初
 秋のあつれときけは。釣魚のおでんに寒夜のあつれとあつれ
 口赤土用の入相に。腹の時計のぐわいといふ。腹の
 に安土と取やうく。此位ぶりのさ則以為序

享和四年甲子孟春

山東京傳藏述



まろゆつゝあふひの二葉の
からく見えさのさめさし
りいけいあやふさるらうり
れいれいけい

あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし



あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし

あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし

あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし
あふひのさめさし



まろめいあやうなうら
にありてよりこの屋敷
うこのちうつわにまぬ
よひのふとをこころの
とらうとせせしめてら
たらふとがわりのせ
かんじんとくをたるが
こころがさとこころも
あけれがまこころの
あかりあつたごま
の血せいらふの
とまろにまめひ
しんがまろ七が母
かまろのまあま
まのちを八ふらまれ
まろめをめまけあつ
まろとらけあの
がまろめとあん
せまろゆへてのまろ
れのをせせらとわ
まろよまろとあ
ありあけてまろ
まろこれにけせ
のこまあり



まろめいあやうなうら
にありてよりこの屋敷
うこのちうつわにまぬ
よひのふとをこころの
とらうとせせしめてら
たらふとがわりのせ
かんじんとくをたるが
こころがさとこころも
あけれがまこころの
あかりあつたごま
の血せいらふの
とまろにまめひ
しんがまろ七が母
かまろのまあま
まのちを八ふらまれ
まろめをめまけあつ
まろとらけあの
がまろめとあん
せまろゆへてのまろ
れのをせせらとわ
まろよまろとあ
ありあけてまろ
まろこれにけせ
のこまあり





Handwritten text in a cursive Japanese style (sōsho) at the top of the right page. The text is arranged in vertical columns and appears to be a chapter title or an introductory passage. It includes characters such as 源氏物語 (Genji Monogatari) and 源氏物語 卷之四 (Genji Monogatari Volume 4).



○山東東傳之我化梁松高長王江畫



○享和四年甲子夏新刊耕書出野

藤原下
 五切
 通油町
 下

けいもさる方と云れども
 こそ大いせねと云う人も
 きつりける小方と云ふ
 こころにあらはれども
 あつちとらうのころは
 ちつとくも人てあ
 一ツ方きれども
 ちつとくも人てあ
 のいのちとてまじり
 こそあつちとらう
 ねいれのあつちと
 けいもさる方と云れども
 は八大方と云うか八の字の
 こそあつちとらうの
 ころはちつとくも人
 こそあつちとらうの
 ころはちつとくも人
 マヤウリと云ふ



けいもさる方と云れども
 きつりける小方と云ふ
 こころにあらはれども
 あつちとらうのころは
 ちつとくも人てあ
 一ツ方きれども
 ちつとくも人てあ
 のいのちとてまじり
 こそあつちとらう
 ねいれのあつちと
 けいもさる方と云れども
 は八大方と云うか八の字の
 こそあつちとらうの
 ころはちつとくも人
 こそあつちとらうの
 ころはちつとくも人
 マヤウリと云ふ

さうらの
小まんげの
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた



ついでに
ついでに
ついでに
ついでに



さうらの
小まんげの
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた

小方
小方
小方
小方

さうらの
小まんげの
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた



さうらの
小まんげの
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた

さうらの
小まんげの
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた
よしとつた

こゝろをなやめけのやうなせむらひと人
 とくろを人のこのころもとまゝなら
 せれ上人とありけりわけあ人の
 うらみいれはらうくうつて七の
 せむらひのころもあれが
 うと人とありけりあ人の
 さんこのはと人とありけり
 てぬきよとありけりあ人の
 水とありけりあ人の
 ころもとありけりあ人の
 うらみのころもとありけり
 ひありのころもとありけり
 万がころもとありけり
 ころもとありけり
 とかのころもとありけり
 ありけり
 けり
 つひに
 ころもとありけり
 ついに



「あつた人のころも
 あつた人のころも
 ころもとありけり
 ありけり」

こゝろをなやめけのやうなせむらひと人
 とくろを人のこのころもとまゝなら
 せれ上人とありけりわけあ人の
 うらみいれはらうくうつて七の
 せむらひのころもあれが
 うと人とありけりあ人の
 さんこのはと人とありけり
 てぬきよとありけりあ人の
 水とありけりあ人の
 ころもとありけりあ人の
 うらみのころもとありけり
 ひありのころもとありけり
 万がころもとありけり
 ころもとありけり
 とかのころもとありけり
 ありけり
 けり
 つひに
 ころもとありけり
 ついに

本湖麻揚



こゝろをなやめけのやうなせむらひと人
 とくろを人のこのころもとまゝなら
 せれ上人とありけりわけあ人の
 うらみいれはらうくうつて七の
 せむらひのころもあれが
 うと人とありけりあ人の
 さんこのはと人とありけり
 てぬきよとありけりあ人の
 水とありけりあ人の
 ころもとありけりあ人の
 うらみのころもとありけり
 ひありのころもとありけり
 万がころもとありけり
 ころもとありけり
 とかのころもとありけり
 ありけり
 けり
 つひに
 ころもとありけり
 ついに

こゝろをなやめけのやうなせむらひと人
 とくろを人のこのころもとまゝなら
 せれ上人とありけりわけあ人の
 うらみいれはらうくうつて七の
 せむらひのころもあれが
 うと人とありけりあ人の
 さんこのはと人とありけり
 てぬきよとありけりあ人の
 水とありけりあ人の
 ころもとありけりあ人の
 うらみのころもとありけり
 ひありのころもとありけり
 万がころもとありけり
 ころもとありけり
 とかのころもとありけり
 ありけり
 けり
 つひに
 ころもとありけり
 ついに

けのちへんくんとて
へいしあきとまふ
きりすのりらの
くちておひつら
らとていせと中
とががあきと
のちあきひつ
こひつひつ
いんてんてん
らうちやらん
しとていせと中
けのちへんくんとて
みとまふと
みんてんてん
らうちやらん
しとていせと中
けのちへんくんとて
みとまふと
みんてんてん
らうちやらん
しとていせと中



「ひちぢうの
ごんてん
あれ

ちんてんてん
けのちへんくんとて
へいしあきとまふ
きりすのりらの
くちておひつら
らとていせと中
とががあきと
のちあきひつ
こひつひつ
いんてんてん
らうちやらん
しとていせと中
けのちへんくんとて
みとまふと
みんてんてん
らうちやらん
しとていせと中

From the Japanese and
the English of the
same name



けのちへんくんとて
へいしあきとまふ
きりすのりらの
くちておひつら
らとていせと中
とががあきと
のちあきひつ
こひつひつ
いんてんてん
らうちやらん
しとていせと中
けのちへんくんとて
みとまふと
みんてんてん
らうちやらん
しとていせと中

けのもまへらんまゝれあて二のたさ
 もかたれれいんぐらうらうらも
 むいりやうのてしゆりうらも
 あかあかひひあひらも
 いれあわのまゆめ
 けゆりうらも

京傳戯作

きりうきりのきりうらりあひら
 きりうきりあひら

讀書

一色代

○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの



○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの

○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの

妙筆あり

○きりうきりの

○きりうきりの

○きりうきりの

○きりうきりの

○きりうきりの

○きりうきりの

○きりうきりの

○きりうきりの

右二やのうらうらあひら
 〆〆〆

京傳店
 長喜画

○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの
 ○きりうきりの



竹天柳

